

研究ノート

介護現場と養成施設における実習指導と 相互ニーズについての意識調査に関する一考察

服部 優子

1. はじめに

厚生労働省が示す「求められる介護福祉士像」が2018（平成30）年度の介護福祉士養成課程のカリキュラム改正で見直され、それに伴って介護実習指導の内容やポイントが変更された。変更内容（表1参照）については日本介護福祉士会のホームページ等で公開されており、都道府県介護福祉士会では令和2年度から、新カリキュラムに対応したテキストを使用した介護実習指導者講習会を開催し周知を進めている。しかし、それ以前に介護福祉士実習指導者講習を受講、修了した場合、また数年単位で実習生の受け入れがなかった施設等では、介護福祉士養成課程のカリキュラム改正が行われたことや、介護実習に3つの「教育に含むべき事項」が示されたことを知らないまま実習指導にあたっている指導者、介護職員が存在していることが服部他（2021）の調査によって明らかになった。前回の調査を通して、登録指導者だけでなく実際に実習生と接する機会のある現場指導者にも実習指導においての変更内容を周知し、方向性を共有するという試みを行い、介護福祉士養成における養成校の役割と、介護施設との連携の必要性を再確認することができた。より多くの施設への周知確認と連携を呼びかけるため、令和3年度においては質問項目を一部修正し、前回協力していただいた施設以外の本学実習施設の登録指導者、現場指導者を対象にアンケート調査を実施することとした。周知の状況の再確認と結果から浮かび上がる課題について考察を行い、また介護現場が期待する介護福祉士養成教育についての意見や思いを集約することで、介護福祉士養成校と実習施設が互いに協力して介護福祉士育成の場を作り上げていくための一助としたい。

表1. 新カリキュラムの「介護実習」に示された3つの「教育に含むべき事項」

教育に含むべき事項	留意点
1、介護過程の実践的展開	介護過程の展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ内容とする。
2、多職種協働の実践	多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ内容とする。
3、地域における生活支援の実践	対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ内容とする。

2. 調査の概要

(1) 研究目的

介護現場で働く実習指導にあたる職員においての、新カリキュラムの「介護実習」に示された3つの「教育に含むべき事項」の周知状況を確認する。また、現場職員が養成校の学生達に何を求め、どのような指導を行っているかを知ることにより、養成校と介護現場の「介護福祉士を育成するための指導の方向性や認識のずれ」が存在するかを確認し、そこから浮かび上がる課題について考察する。

(2) 方法

令和3年4月1日～令和4年1月8日を調査期間とし、「介護現場が期待する介護福祉士養成教育について」というテーマで令和3年度の本学実習施設の登録指導者、及び現場で実習指導にあたる職員を対象にアンケート調査を実施した。対象は入所施設とし、今回は特別養護老人ホーム3カ所に協力を依頼した。

(3) 倫理的配慮

アンケート調査票は無記名の上、記入後の用紙は個別に封入し、個人が特定できないよう配慮した。事前に各施設に電話連絡、本調査に関する趣旨説明を行い、調査・研究の目的、意義、方法、倫理的配慮及び個人情報保護、研究結果の公表方法などについて伝達、周知を行った。アンケート用紙の冒頭に本調査に関する趣旨説明を記載し、回答者一人ひとりに周知できるよう配慮した。本調査・研究は、高田短期大学研究倫理規定および高田短期大学介護福祉研究センター倫理規定に基づくものとする。

(4) 質問項目と集計結果

調査依頼をした3施設の担当当事者からの呼びかけにより合計26名の回答が得られた。質問項目と集計結果は以下の通りである。(表2参照)

表2. アンケート質問項目と回答集計 (n = 26) ※ 問7、問8は複数回答、問9は自由記述

問1	職場として該当する施設
	1、特別養護老人ホーム (26名) 2、介護老人保健施設 (0名) 3、障害者支援施設 (0名) 4、特養併設通所介護事業所 (0名)
問2	主な仕事 (職種、職位) (複数選択可)
	1、経営者 (0名) 2、施設長、事務所管理者 (1名) 3、主任、介護部門の長 (6名) 4、ケアマネージャー (1名) 5、ユニットリーダー、サブリーダー、フロアリーダー (10名) 6、相談員 (3名) 7、その他 (介護士) (2名) 8、その他 (無記入) (1名) 9、その他 (ケアワーカー) (4名) 9、その他 (デイ) (1名)

問3	実習指導者としての立場
1、登録指導者（4名） 2、現場指導者（実習指導者講習修了済み）（3名） 3、現場指導者（実習指導者講習未修了）（16名） 4、未回答（3名） ※登録指導者とは、厚生労働省に届出済の介護福祉士実習指導者講習会修了者	
問4	厚生労働省が示す「求められる介護福祉像」が、2018年度のカリキュラム改正で見直されたことは知っていたか。
1、知っていた（7名） 2、このアンケートで知った（19名）	
問5	介護福祉士養成課程のカリキュラム改正により、介護実習指導の内容やポイントが変更されたことは知っていたか。
1、知っていた（6名） 2、このアンケートで知った（20名）	
問6	新カリキュラムの「介護実習」に示された3つの「教育に含むべき事項」の内容を知っていたか。
1、知っていた（7名） 2、このアンケートで知った（19名）	
問7	普段の業務でどんなことに重点をおいているか。上位3つを選択し理由を回答欄に記入 ※理由については表3参照
1、利用者とのコミュニケーション（15名） 2、記録の正確さ（3名） 3、時間的効率（4名） 4、職業倫理（2名） 5、報告、連絡、相談（18名） 6、施設の役割、理念の理解（5名） 7、クレーム予防（1名） 8、多職種との連携、チームケア（18名） 9、専門的技術、知識の研鑽（5名） 10、入居者個々の理解（1名）	
問8	実習生の指導で（または指導する立場になった場合）どんなことに重点をおいているか。上位3つを選択し理由を回答欄に記入 ※理由については表4参照
1、利用者とのコミュニケーション（24名） 2、記録の正確さ（4名） 3、時間的効率（1名） 4、職業倫理（2名） 5、報告、連絡、相談（14名） 6、施設の役割、理念の理解（3名） 7、クレーム予防（0名） 8、多職種との連携、チームケア（5名） 9、専門的技術、知識の研鑽（15名） 10、その他（入居者個々の理解）（1名） 11、その他（利用者の生活サイクル）（1名） 12、その他（職員の動き）（1名）	
問9	介護福祉士養成校の学生に、介護福祉士としてどのようなことを学んでほしいか。 自由記述 ※表5参照
1、在学中に学んでほしいこと 2、実習期間中に学んでほしいこと 3、就労までに身につけてほしいこと	

回答者の内訳は特別養護老人ホーム26名、主な仕事（職種、職位）はユニットリーダー、サブリーダー、フロアリーダーが10名と最も多く、次いで主任、介護部門の長が6名（兼務含む）であった。実習指導者としての立場は実習指導者講習未修了の現場指導者が16名、実習指導者講習修了済みの現場指導者が3名、登録指導者が4名、未回答が3名であった。問4の「厚生労働省が示す「求められる介護福祉像」が、2018年度のカリキュラム改正で

見直されたことを知っていたか」という設問についての回答は「知っていた」が7名、「このアンケートで知った」は19名（73%）であった。更に問5「介護福祉士養成課程のカリキュラム改正により、介護実習指導の内容やポイントが変更されたことは知っていたか」については「知っていた」が6名「このアンケートで知った」は20名（76%）、問6「新カリキュラムの「介護実習」に示された3つの「教育に含むべき事項」の内容を知っていたか」では「知っていた」7名「このアンケートで知った」は19名（73%）であった。

また問7、問8では介護現場の指導者たちが介護現場で働く介護福祉士にどんなことを求めているかを確認、検証するため、普段の業務で重点をおいていることとその理由、養成校の学生（実習生）にどのようなことを期待しているかについて調査を行った。回答内容（抜粋）は以下の通りである。（表3. 表4. 表5参照）

表3. アンケート問7. 普段の業務で重点をおく理由（抜粋）

1、利用者とのコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の体調の変化に気づけるようにするため ・利用者ひとりひとりを知るため ・入居者とのコミュニケーションをとることで日々の小さな変化に気が付けるとともに、信頼関係を築くことができる ・皆様に楽しく安全にすごしていただくことが一番 ・一日楽しく過ごしてもらいたいから ・利用者があるの介護職、何よりも利用者が第一 ・コミュニケーションからも情報を得るため ・利用者の状況を把握し、個別的なケアを充実させるため ・1番重点においているが、これはできていて当たり前であるため3番目においた ・安心してもらうため ・利用者のニーズを知るため ・業務に追われる中、少しでも寄り添えるようにしている ・今、目の前にいる方を一番大切にしたいから ・思いを知り、介護の方向性を決定づけるため
2、記録の正確さ	<ul style="list-style-type: none"> ・記録が詳しくうまく書かれていると、自分がいなかった時の様子も把握しやすい ・どんなことがあっても必要である
3、時間的効率	<ul style="list-style-type: none"> ・多忙であれば正確なケアができなくなるため ・効率といっても様々だが、利用者のペースに合った介護を実践していく為（その他色々）にも効率化は必要 ・限られた時間の中で、やりたいこと、やるべきことを行うために、その中でゆとりができれば、たまにはゆっくり利用者と過ごす ・全体業務を進めるにあたり、1日又は1週間、1か月単位で見えていく為にも重要
4、職業倫理	<ul style="list-style-type: none"> ・介護、福祉のプロとして利用者に対して自分の力を発揮するために必要なのではないか ・人として社会人として介護士としてとても大切なことだと思う
5、報告、連絡、相談	<ul style="list-style-type: none"> ・チームケアの意識をもつため ・一人で物事を決定しないようにするため ・利用者に関して、業務に関しては職員が共通意識を持つべき ・基本的な仕事をする中で、入居者に対して、交代勤務や色々は職種と関わる中で必要な部分である。仕事の最初と最後。 ・脱衣所や入浴場で皮膚等の確認をし、報告したり申し送りノートへ記入し、職員間で共有したりするため

	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種連携を実現するためには報連相が大切 ・できていないと質の低下に繋がり、職員関係も悪くなりがち ・チームケアにあたり必要不可欠 ・効率が上がる ・連絡、コミュニケーションをスムーズに行うことが、ミスを減らすこと、トラブルを減らす事への近道 ・皆の力を合わせるが良いケアにつながると思うから ・ぬげのないよう配慮しないと全体の業務に支障がでるし、怪我、事故等のリスクもある ・職員間、ご家族、ご利用者、どの関係においても報連相がしっかり行われることがケアに重要と感じるから
<p>6、施設の役割、理念の理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・報連相を行うため ・職員全員の意思統一のため ・施設として目指す方向について理解していないと私たちが行う目標がバラバラになり、まとまりがうまくいかない ・自分たちも地域の一員として出来ることを大切にしていこうという視点で動く ・問題、課題があった時に色々な考え方の元となり、同じ方向性を持つには必要だから ・立場的にこれを理解したうえで、業務やサービス提供を行っており、指導したりするので。
<p>7、クレーム予防</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者、ご家族に安心できる生活を送ってもらうため
<p>8、多職種との連携、チームケア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職の想いだけでは、利用者の暮らしが豊かにならない ・チームがよいと介護もよい ・多職種のまとまりがないと、一人に対しての色々な点からのサポートがゆらぐ。多職種が意見を出し合いまとめる人もいる ・看護の方と連携するため ・多面的に視点するエビデンスのある介護のため ・施設における多職種連携のキーマンとしての役割が自分に求められている ・サービス向上と安全なケアをするためには欠かせないので ・専門職（多職種）がケアに携われればいろいろな視点で利用者の問題点を解決することにつながる ・質の高いケアを提供するため ・利用者によりよいサービスを提供し、スタッフ間で情報を共有するため ・専門職の横のつながり、連携が利用者へのケア向上、職員のモチベーションアップにつながると考える ・介護するにあたりチームで行うので一番大切にしている ・皆の力を合わせるが良いケアにつながると思うから ・ぬげのないよう配慮しないと全体の業務に支障がでるし、怪我、事故等のリスクもある ・施設全体を見ると底辺にあるチームケア、多職種連携を大切にしていきたい ・職員間、ご家族、ご利用者、どの関係においても報連相がしっかり行われることがケアに重要と感じるから ・スムーズに業務に行うには大切なことだと思う
<p>9、専門的技術、知識の研鑽</p>	<p>よりよい介護には介護技術の質も大切</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護する側、される側のどちらも気持ちよく、スムーズに行動を進めるため専門的技術は大切 ・裏打ちされたエビデンスのため ・プロとして必要 ・技術、知識が乏しいとケアの質の低下に繋がると感じているから
<p>10、その他（入居者個々の理解）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他は10に奉じるサブカテゴリー

表 4. アンケート問 8. 実習生への指導で重点をおく理由 (抜粋)

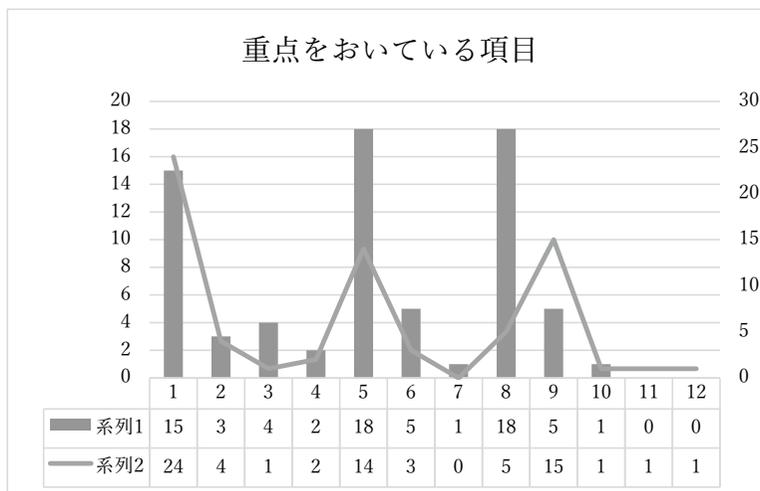
<p>1、利用者とのコミュニケーション</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者とのコミュニケーションをし、信頼されるように ・利用者を知り、関係を深めるため ・限りある期間の中で技術的なことも大切だと思うが、仕事についてしまくと中々できないコミュニケーションをとって利用者の想いを知る事が大切だと思う ・利用者とは触れ合える貴重な場であるため ・皆様に楽しく安全にすごしていただくことが一番 ・まずはその方を知り、利用者の一人というより個人を見るように伝えたい ・技術も必要であるが人と話す、話を引き出せることがその入居者のQOLの向上にもつながる ・少しでも利用者へ寄り添うため ・コミュニケーションの大切さと情報収集の上で必要だから ・まず受け入れられる必要があると考える ・本心を理解していくために必要 ・直接利用者に関わって、色々なことを感じてほしい ・利用者になれてほしい。多くの方にかかわってもらいたい ・高齢者の想いを知ってもらうため ・コミュニケーションを通じてその方を知る事に繋がるから ・学校ではできないこと、直接利用者に関わりを持つこと、利用者を知る事、介護をするうえでとても大切なことなので
<p>2、記録の正確さ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・気づきの重要性を知ってほしい ・実習であっても大事なこと ・職員の情報共有ツールであるとともに、法令を守り、報酬を得る根拠となるため ・記録は体験したことを整理する大切なものだから、また、他に人に伝えていくツールでもあるから
<p>3、時間的効率</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一日の流れがあり、仕事として業務することも重要
<p>4、職業倫理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これから介護(福祉)に携わるなら理解すべきこと。働く前に身に着けるべきことだと思うので。 ・まず介護士、介護実習の学生として、利用者への立場をきちんとすることが大切だと思うので
<p>5、報告、連絡、相談</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種との情報共有 ・どんなことでもハウレンソウが大切 ・日々の中で伝える力、情報の共有についての大事な部分である。交代勤務の中で皆とうまく連携等できることが必要 ・気づきの重要性を知ってほしい ・介護をする上でも職員として仕事をしていく上でも大切だと思っています。これができる人は信頼される ・社会へ出てからも必須で実習中にも利用者、職員との関係を気付くうえで大切 ・不足すると、職員全体での情報の共有が難しくなり、悪いほうに行ってしまう ・良いケアを提供するため ・仕事の基本だと考えているから ・特に報告に重点を置いている。実習生が見たこと、感じたことを知る上にも報告するよう心がけている ・独自で判断せず、情報をしっかり把握、相談等の対応に努めていってほしいから ・些細な事でも意識や理解のずれをなくすために細かめにいきたい
<p>6、施設の役割、理念の理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設ごとの違いを感じてもらうため ・目指すべきところやケアの根底にある部分 ・特養とはこんな場所だと理解してほしい
<p>8、多職種との連携、チームケア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人の力では限界があるため ・実習中でも多職種と関わることで介護職とは違う知識を持って帰れる点 ・どんな職種があり、どのように連携しているのか知る必要がある ・専門性を発揮させる ・自分一人ではできないことがたくさんあると知ってほしいから

<p>9、専門的技術、知識の研鑽</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で行うパット交換などは生徒同士どうしても身体を動かしてしま うが、実際に身体の動かない利用者に対応することでテキスト通りには はいかないことも知ってもらうため ・技術を実践できる場は少ないため ・よりよい介護には介護技術の質も大切 ・責任とプライドをもってこの仕事に臨めるようになってほしい。介護 をする人も専門性を大切にしてほしい ・技術や知識がないままでも今後就職してきた時、学校を出ているから 分かると思われてしまう ・何事にも根拠ある説明が必要だと思うので。 ・学校で学んだことの実践やその応用を知り、体験することで、知識の 習得になると考える ・技術、知識を深めることで、仕事に自信を持つと思うから ・介護技術を体験できる大切な時間、自分（学生）の体の使い方を感じ てほしい ・少しでも介護技術の体験をさせてあげたいと思う ・安全な介護を行うため ・学校で学んだことを実践、体験してみる ・現場で技術を習得し、今後の勉強に繋げてもらいたい
<p>11、その他（利用者の生活 サイクル）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の利用者さんの生活の過ごし方を見ていただいたらよいかと思ひ ます
<p>12、その他（職員の動き） （1名）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の職員の動き、一人一人の利用者さんに対する職員が行うケア等 見ていただきたい。

表5. アンケート問8.介護福祉士としてどのようなことを学んでほしいか（抜粋）

<p>在 学 中 に 学 ん で ほ し い こ と</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の主な疾患、症状、介護技術 ・介護技術の基本をマスターしてきてほしい ・利用者の病気を説明し、介護過程の展開で注意すべき点がより見えやすくなると感じる ・着患、脱健等、初歩の初歩は確実に出来るようになっていけると、技術支援に対応できるチャン スが増えると思います。 ・認知症や病気の知識 ・介護意識。相手に対する尊厳も大切に。 ・基本の技術（実習や働くまで基礎知識は必要）、コミュニケーション能力の知識（人と話す、雰 囲気から感じるなど必要不可欠）、アンガーマネジメント（イライラは社会人の中でもある、学 ぶことで自分の逃げ道と対策をする） ・ベッドメイキング、着脱方法、車いす操作等々基本的なことをなぜそうするのかを考えたいうえ で習得してほしい ・この仕事をしていく上での心構え、この仕事の大切さ、価値観、人とのコミュニケーションは 楽しいものであるということ、基礎技術 ・コミュニケーションの取り方とチームケアの大切さ、介護の基本 ・利用者一人一人によってケアの仕方が違うということ、教科書通りにいかないことが多いというこ と。私達が相手にする利用者は尊ぶべき方であるということ。基本的には用語（理想と現実のギャ ップを少しでも小さくしたいのと、基本的な用語を理解している方が説明をスムーズにできるので） ・人を思いやる気持ち。実習のときだけではなく常に持って行ってほしい。専門技術の習得はも ちろんですが。 ・介護される側の気持ち ・介護福祉士の役割、仕事の責任、介護の仕事の大切さ、世の中の人からどのように介護職見ら れているのか。 ・介護知識、モチベーション（やるき）アップしてもらいたい ・教科書からの知識、先生からの知識。チームワークを通じて、相手を思いやる心、達成感、コ ミュニケーション能力 ・教科書を学ぶ、基本を身につける、同級生との横のつながり（社会に出たときのネットワー クのためにも） ・介護の基本、基本をしっかりと身につけたうえでこそ、様々な対応につながると思うから ・学校で学ぶことの中には必要なか疑問に思うこともあるかもしれませんが、多くのことを一 通り学んできてほしい。知識として知っているのと、知らないのでは何かを判断するときに全く 違ってくるので
--	---

問7の「普段の業務でどんなことに重点をおいているか」と問8の「実習生の指導で（または指導する立場になった場合）どんなことに重点をおいているか」については累計をグラフにして比較を行った。結果は以下の通りである。



系列1：介護職員が普段の業務で重視していること

系列2：実習指導者として実習生に指導する際に重視していること

(項目内容)

- 1、利用者とのコミュニケーション 2、記録の正確さ 3、時間的効率 4、職業倫理
 5、報告、連絡、相談 6、施設の役割、理念の理解 7、クレーム予防
 8、多職種との連携、チームケア 9、専門的技術、知識の研鑽 10、入居者個々の理解
 11、利用者の生活サイクル 12、職員の動き

※ 11と12については「その他」で記述されたもの

実習指導にあたっている介護職員が普段の業務で重視している項目は「報告、連絡、相談」と「多職種の連携」が同率で最も多く、次いで「利用者とのコミュニケーション」が挙げられている。これらについては表3の理由コメントから、「利用者のことを知り、その人に合った援助をチームで行っていくために必要である」という思いが伺える。対して実習指導者として実習生への指導で重視している項目では「利用者とのコミュニケーション」が最も多く、次いで「専門的技術、知識の研鑽」「報告、連絡、相談」が挙げられていた。表4の理由コメントからも、介護職員が普段の業務で重視している項目を身につけてほしいという期待が伺えたが、「専門的技術、知識の研鑽」については普段の業務よりも実習生への指導の方が重視されていること、「多職種連携、チームケア」については普段の業務と実習生指導において、重視されている割合が異なっていることがわかった。

3. 考察

今回の調査で、厚生労働省が示す「求められる介護福祉士像」の改正や新カリキュラムの「介護実習」に示された3つの「教育に含むべき事項」について把握している現場指導者の人数が、回答者の約27%であることがわかった。前年度の調査結果から外部研修や教員との打ち合わせ等で養成校と直接関わりのある登録指導者や、実習指導者講習を修了済みの現場指導者には改正、変更箇所が伝わっているが、講習未修了で養成校との関わりが少ない現場指導者への周知、確認が十分ではないことがわかったが、今年度は調査対象の施設を変更しても同様の結果となり、共通の課題を抱えている施設の存在が明らかとなった。新カリキュラムの「介護実習」に示された3つの「教育に含むべき事項」のうち、2の多職種協働の実践においては、介護職員は上位に重視して日々の業務に取り組んでいるが、実習生への指導については半分以下の数値であった。「多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ内容とする」という指針の共通理解が出来ているとは言い難いが、表4の5の自由記述では重要性を意識しているというコメントも多く、施設によって取り組みに差があるのではないかと思われる。また、専門的技術、知識の研鑽では1の介護過程の実践的展開も含まれているが、表4の9の自由記述の中で、介護過程に触れているコメントはほぼ見られなかった。これは表4の1の利用者とのコミュニケーションや他項目、表5の「在学中に学んでほしいこと」のコメントからも包括的に捉えられているという見解もあるが、「教育に含むべき事項」の周知率の低さが実習指導における視点や方針に影響していることが考えられる。

また普段の業務で重視している項目の回答からは、前年度と同様に「利用者への関わりやチームケア」を重視している回答が多かった。下位となっていた「記録の正確さ」や「職業倫理」についても、自由記述からは重要性を意識して包括的に取り組んでいる様子が伝わるコメントが見られ、決して軽視されているという事ではないとわかった。

本学では毎年10月に実習反省会を開催し、施設実習指導者と養成校教員が情報交換を行う機会を作っている。令和3年度においてはコロナ禍のため短縮進行となったが、令和2年度において施設実習指導者に「公益社団法人日本介護福祉士会 新カリキュラム対応 介護実習指導の内容とポイント」を資料配布し、周知を行っていた。反省会に出席して下さる施設の登録指導者への周知は出来ているが、そこから登録指導者のみが現場指導者に養成校との連携事項や情報伝達を行うのではなく、介護実習施設全体と養成校が相互に連携、サポートの機会を作れるよう取り組んでいく必要がある。学生への指導内容と根拠を共有していくことが、登録指導者や学生の不安、負担の軽減につながると考えられる。

4. おわりに

今回の調査から、介護現場の指導者達は利用者へのよりよいケアの実践のため、実習生に利用者理解や報告連絡相談、専門的知識や技術などを身につけた存在となるよう期待し

ていることがわかった。しかしホームページや研修会への参加の呼びかけだけでは、実習施設への「教育に含むべき事項」の現場指導者への周知はあまり進んでいないということも明らかになった。養成校教員が積極的に施設への研修等開催し、参加を呼びかけるという方法もあるが、昨年度から今年度においてはコロナ禍による介護職員の負担も大きく、研修等の開催も難しい状況であった。お互いに少しずつ対面方式以外での開催環境が整備されてはいるが、まだまだ参加の機会は限られる状況であると考えられる。実習の受け入れが出来なくなっている施設も増えており、養成校との連携の弱体化も懸念される。施設側に余裕がなくなると、実習生への指導にも影響が生じてくる。現場の期待に応える介護福祉士を育成する実習指導のあり方について今後検討していくため、また現場の介護職員が望む介護福祉士像に近づけるため、今後の課題を以下のように考える。

- (1) 実習施設の登録指導者、現場指導者が実習指導において職員間で情報を周知、共有する際に困っていることを養成校教員と共有し、課題と対応を検討する機会を作る。
- (2) 検討内容によっては施設運営者、多職種にも共有、相談、協力を呼びかける。
- (3) 実習指導者のストレスケア、指導についての情報交換の場を作り、対面でなくとも横のつながりを作る方法を検討、協力する。

今後も実習施設と連携、情報共有の機会を作り、登録指導者だけでなく現場指導者への共有の工夫、サポートについても話し合い、介護福祉士をめざす学生が安心して実習を行える環境を整えていきたい。

謝辞

本研究で使用したアンケート調査に際し、関係者の皆様に多大なるご協力をいただきましたことを、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

参考文献

1. 服部優子ほか「介護現場のニーズにおいての実習指導尾の検討と課題」高田短期大学介護・福祉研究第7号、2021
2. 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会 新カリキュラム対応 介護実習指導の内容とポイント pamphlet.pdf (jaccw.or.jp)
3. 厚生労働省ホームページ「介護福祉士養成課程における教育内容の見直し」について 第13回社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会 平成30年2月15日 Microsoft PowerPoint - 介護福祉士養成課程における教育内容等の見直し (mhlw.go.jp)